

自尊感情の醸成に向けた道徳教育の充実



北海道教育委員会

<目次>

I はじめに	P 1
II 自尊感情の醸成に向けた道徳教育の充実	P 2
・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の取組	P 3
III 自尊感情の醸成に向けた道徳科の授業	P 4
・登別市立鷺別小学校〔第1学年〕／上ノ国町立上ノ国小学校〔第2学年〕	P 5
・砂川市立砂川小学校〔第3学年〕／帯広市立啓北小学校〔第4学年〕	P 6
・鹿追町立鹿追小学校〔第5学年〕／釧路市立鶴野小学校〔第5学年〕	P 7
・旭川市立東光小学校〔第6学年〕／蘭越町立蘭越小学校〔第6学年〕	P 8
・八雲町立八雲中学校〔第1学年〕／乙部町立乙部中学校〔第1学年〕	P 9
・帯広市立帯広第二中学校〔第2学年〕／羅臼町立知床未来中学校〔第2学年〕	P 10
・稚内市立稚内南中学校〔第2学年〕／北見市立東相内中学校〔第3学年〕	P 11
・羽幌町立羽幌中学校〔第3学年〕／浦河町立浦河第一中学校〔第3学年〕	P 12

I

はじめに

学校における道徳教育は、児童生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、児童生徒一人一人が将来に対する夢や希望、自らの人生や未来を切り拓いていく力を育むことが求められています。

北海道教育委員会では、本道の児童生徒の自尊感情の醸成に向け、道内小・中学校の協力を得て、優れた実践事例を取りまとめましたので、各学校において、道徳教育の充実にに向けた校内研修等で御活用ください。

Ⅱ

自尊感情の醸成に向けた道徳教育の充実

自尊感情の醸成に向けた各学校の各教科等における道徳教育の取組や、家庭や地域社会との連携による取組のポイントを掲載しています。

自尊感情の醸成に向けた道徳教育の充実

～学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育～

1 道徳教育の要となる道徳科

学校における道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、特に道徳科は、各活動における道徳教育を補ったり、深めたり、相互の関連を発展させたり統合させたりする役割を果たします。

そのため、道徳科において、各教育活動における道徳教育で養われた道徳性が調和的に生かされ、道徳科の特質を踏まえた学習を計画的、発展的に行うことが大切です。

※ 道徳科における自尊感情の醸成に向けた各学校の実践例については、5ページ以降に掲載しています。

3 日常生活等における道徳教育

道徳教育で養う道徳性は、日常生活において、物事を多面的、多角的に考え、自らの判断により、適切な行為を選択し、実践するなど、道徳教育の指導内容が児童生徒の日常生活に生かされるようにすることが大切です。

特に、いじめ防止等の課題について、道徳教育や道徳科の特質を生かし、道徳性を養うことで、児童生徒が主体的に課題に関わることができるようにしていくことが大切です。

実践例

- ・子ども同士が感謝の言葉を記し、掲示する取組（ありがとうの木、思いやり掲示板 など）
- ・全教職員による児童生徒へのこまめな声掛け
- ・あいさつ運動 など

2 各教科等における道徳教育

各教科等における道徳教育は、各教科等の目標に基づいてそれぞれに固有の指導を充実させる過程で、道徳性が養われることを考え、見通しをもって指導することが大切です。

例えば、特別活動では、自己のよさや可能性を大切に、集団活動を行おうとする態度などを育むことが求められます。

実践例

- ・学びのプロセスや成長を自覚することができる振り返り活動
- ・異学年間の交流や縦割り班での活動
- ・成功体験等のキャリア・パスポートへの蓄積 など

4 家庭や地域社会との連携による道徳教育

学校で行う道徳教育をより強化するためには、家庭や地域社会と共通理解を図り、連携、協力することが大切です。

具体的には、学校通信や学校のホームページ等で道徳教育の全体計画を示したり、道徳教育の成果としての児童生徒のよさや成長の様子を知らせたりするとともに、道徳科の授業参観や授業後に講演会や協議会を行うことなどが考えられます。

実践例

- ・参観日における、全学年の道徳科の授業公開
- ・授業参観後に道徳教育に関する講演会や情報交換会を実施 など

【Point】

- ・各教科等における道徳性を養う指導については、児童生徒が伸び伸びとかつ真剣に学習に打ち込めるよう留意し、思いやりがあり、自主的かつ協力的な学級の雰囲気や人間関係となるよう配慮することが大切です。
- ・道徳教育における評価については、教師が児童生徒一人一人の人間的な成長を見守り、児童生徒自身の自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気付ける働きをもつようにすることが求められます。

Ⅲ

自尊感情の醸成に向けた道徳科の授業

自尊感情の醸成に向けた各学校の道徳科の実践例を掲載しています。

〔授業の概要〕

- 主題名：「がんばってつづける」
- ねらい：一生懸命練習してうんていができるようになった「わたし」の姿を通して、何かを最後までやり通すにはどのような気持ちが必要かを考えさせ、諦めずに努力し続けようとする実践意欲と態度を育てる。
- 教材：「やればできるんだ」（光村図書「どうとく1 きみが いちばん ひかるとき」）

〔本時の展開〕

	学習活動	備考	ICT活用による効果①
導入	○ これまでに「無理だ」と感じたことを全員で共有する。	・1人1台端末を活用し、「事前アンケート」を実施する。	端末を活用してGoogleフォームで「事前アンケート」を実施し、導入時に集計結果をテレビに映すことにより、児童が、他者と自分の考えを比較しながら考えることができるようにしています。
展開	○ 教材を読み、つらい思いをしている私について考える。（「事前アンケート」の活用） ◎ 「『私』は、どうして最後までがんばれたと思うか」について考える。 また、「『私』のように続けるためには、どのような気持ちが必要なのか」について多面的・多角的に考える。 ○ 本時の学習を振り返り、「今後、何をがんばりたいか」について自分の考えを深める。	・個人の考えを1人1台端末を活用して入力する。 ・1人1台端末に入力した自分の考えを基に交流する。	ICT活用による効果② Jamboardに入力された児童の考えを、教師が把握・整理し、意図的に指名したり、問い返したりしながら、全体で共有することにより、最後までがんばることができた理由についての考えを広げ深めることができるようにしています。
終末	○ 友だちのがんばりたいことを聞き、何かを最後までやり通そうとする意欲を高める。	・ワークシートを活用する。	

自尊感情の醸成のための工夫①
「事前アンケート」を活用し、自分だけでなく友だちの考えを知ることにより、本時のねらいについて、自分との関わりで捉えることができるようにしています。

自尊感情の醸成のための工夫②
自分ががんばりたいことを発表・交流することにより、何かを最後までやり通そうとする意欲やその時に大切な気持ちについて考え、がんばり続けようとする意欲を引き出しています。

〔授業の概要〕

- 主題名：「自分のいいところ」
- ねらい：自分のよい所を考えることを通して、周りの人の声掛けで自分のよい所が見付かることがあることや、よい所が見付かると嬉しい気持ちになることに気づき、自分のよい所を見付けていこうとする実践意欲と態度を養う。
- 教材：「いいところ みいつけた」（日本文教出版「小学どうとく 生きる力2」）

〔本時の展開〕

	学習活動	備考	ICT活用による効果①
導入	○ 教材の題名を確認し、「自分のいいところ」について振り返る。	・全員が簡単に振り返ることができよう、2択で意思表示する。	自分の考えを書いた児童は、随時、端末で写真を撮り、クラウドサービスのファイル共有機能を活用して、友だちの考えを確認することにより、自分と友だちの考えを比較しながら、多面的・多角的に考えられるようにしています。
展開	○ 教材を読み、「リエ」が思っていることについて話し合う。 ◎ 「リエ」の気持ちを自分事として考えることを通して、先生の声掛けで「リエ」が自分のよい所を見付けたことやその時の喜びに気付く。 ○ 本時のねらいを確認するとともに、本時の学習を基に、自分のよい所について振り返る。	・ペアで考えを交流する。 ・クラウドサービスを活用して考えを共有する。 ・自分の考えやよいと思った友だちの考えを発表する。 ・教室に掲示している友だちから伝えられた自分のよい所も参考にしてよいことを伝える。	ICT活用による効果② 教師は、クラウドサービスで共有した児童の考えを基に、意図的な指名や問い返しを行うことにより、他者理解等を一層深めることができるようにしています。
終末	○ 今後の「きらぼし」の取組について確認し、自分や友だちのいいところを見付けようとする意欲を高める。	・帰りの会でやっている、友だちのよい所を見付ける活動で発表する人数を増やしていくことを伝える。	

自尊感情の醸成のための工夫①
教材の題名から、自分のよい所を「思い付く」、「思い付かない」の2択で全員が選択、挙手することにより、本時のねらいを自分との関わりで捉えることができるようにしています。

自尊感情の醸成のための工夫②
これまで行ってきた、友だちのよい所を見付ける活動との関連を図り、日常生活と関連付けながら振り返りを行うことにより、自他のよい所を見付けようとする意欲を引き出しています。

〔授業の概要〕

- 主題名：「自分のよさを知ろう」
- ねらい：自分では気付かなかった自分らしさについて話し合うことを通して、自分らしさを見つけて伸ばしていくことの大切さに気づき、自分の個性をさらに伸ばそうとする心情を育てる。
- 教材：「ぼくらしさってなんだろう」（教育出版「小学どうとく3 はばたこう明日へ」）

〔本時の展開〕

	学習活動	備考	ICT活用による効果①
<p>自尊感情の醸成のための工夫① 日常の場面を具体的に想起させることにより、自分のよさに気付かせることができるようにしています。</p>	<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分らしさとはどのようなことを考える。 ○ 自分のよさについて考える本時の課題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常で見られる児童のよさを意図的に取り上げ、全体で共有する。 	<p>端末を活用して、本教材において取り扱う偉人についての映像を視聴することにより、教材についてより深く理解し、自分事として考えていくことができるようにしています。</p>
<p>自尊感情の醸成のための工夫② 多様な考えを交流させることにより、自分のよさについて多面的・多角的に捉えることができるようにしています。</p>	<p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の個性や特徴に気づき、長所を伸ばすことについて、多面的・多角的に考える。 ○ これまで以上に視野を広げ、他者の多様な個性や生き方に触れる。 ◎ 改めて、自分の特徴に気づき、長所を伸ばしていこうとする意識を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を活用して、映像を見る。 ・Jamboardを活用して、登場人物のよさを考え、共有する。 ・自分らしさについて、考えを深める。 	<p>ICT活用による効果②</p> <p>友だちのよさを全員が端末で記入・閲覧できるようにすることにより、友だちの新しい一面を再発見したり、友だちと自分の違いに気付いたりすることができるようにしています。</p>
<p>自尊感情の醸成のための工夫③ 友だちから見た自分のよさを聞いたり、自分自身を深く見つめたりさせることにより、自分のよさを実感し、日常生活の中で生かしていこうという意欲を引き出しています。</p>	<p>終末</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちとの交流の中で、互いを認め合い、高め合える場を設定する。 ○ 自分のよさを日常生活で生かせる場面を考えるを通して、長所をさらに伸ばしていこうとする意欲を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Jamboardを活用して、より多くの友だちのよさを記入する。 ・共有された内容を参考に、自分のよさが生かせる場面を具体的に想起する。 	

〔授業の概要〕

- 主題名：「よりよい友だち関係」
- ねらい：友だちと互いに信頼し合い、助言し合いながら、友情を深めていこうとする実践意欲と態度を育てる。
- 教材：「大きな絵はがき」（東京書籍「新しいどうとく4」）

〔本時の展開〕

	学習活動	備考	ICT活用による効果①
<p>自尊感情の醸成のための工夫① 個人だけでなく、クラス全体の結果を提示し、対比することにより、本時のねらいについて、自分との関わりで捉えることができるようにしています。</p>	<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えや思いの現在の位置を示す「ポジショニング」を用いて、「友だち」とのよりよい関係の在り方について、明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートや「ポジショニング」の結果を1人1台端末を活用して提示する。 	<p>端末を活用して自分の考えを入力し、集計結果を可視化することにより、児童が短時間で他者と自分を比較しながら、「よりよい友だち関係」について考えるとともに、クラス全体の傾向を把握できるようにしています。</p>
<p>自尊感情の醸成のための工夫② ポジショニングを再考し、周りの友だちの多様な考えを知ることにより、よりよい友だち関係について考えを深めることができるようにしています。</p>	<p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材を読み、役割演技を通して、よりよい友だち関係について多面的・多角的に考える。 ○ 導入で明らかにした自分の考えと比べ、現段階のポジショニングを再考する。 ◎ 友だちと自分との関わりについて、よりよい友だち関係を作っていくために大切にしたいことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末に自分のポジショニングとその理由を入力し、交流させる。 	<p>ICT活用による効果②</p> <p>教師が、端末に入力された児童の考えを把握・整理し、意図的に指名したり、問い返したりしながら、全体で共有することにより、児童が「よりよい友だち関係」についての考えを一層広げ深めることができるようにしています。</p>
	<p>終末</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時を振り返り、よりよい友だち関係を作る際に大切にしたいことについて考えを深め、さらに友だち関係を深めていこうとする意欲を高める。 		

〔授業の概要〕

- 主題名：「挨拶の大切さ」
- ねらい：相手の立場や気持ちを考えて、礼儀正しく心の込もった接し方をしようとする実践意欲と態度を育てる。
- 教材：「オーストラリアで学んだこと」（東京書籍「新しい道徳5」）

〔本時の展開〕

	学習活動	備考	
自尊感情の醸成のための工夫① 礼儀が行為として表れない難しさについて触れることにより、本時のねらいについて、自分との関わりで考えられるようにするとともに、自分を肯定的に受け止められるようにしています。	導入 ○ 普段の自分の挨拶について振り返る。		ICT活用による効果① 端末を活用して自分の考えを入力し、他者と考えを共有することにより、互いの考えを比較しながら、「礼儀」についての考えを実感できるようにしています。
	展開 ○ 教材を読み、時と場に応じた挨拶について、多面的・多角的に考える。 ◎ 挨拶のもつよさや意義について、捉え直す。 ○ 捉え直したよさや意義について共有することを通じて、考えを深める。	・個人の考えを1人1台端末を活用して入力する。	
自尊感情の醸成のための工夫② 友人からの推薦を受け、自分では気付かなかった挨拶への身構えのよさに気付いたり、自分の挨拶を振り返ったりすることにより、心の込もった接し方への意欲を引き出しています。	終末 ○ 共感した友人の考えを推薦する形で紹介し、自分の挨拶をよりよくしていこうという意欲を高める。 ○ 教師の説話を通して、自分の一日の生活の中にある礼儀を見直す機会とする。	・端末に入力した自分の考えを基に話し合う。	ICT活用による効果② 教師が、端末に入力された児童の考えを把握・整理し、全体で共有することにより、「礼儀」についての一人一人の考えを広げ深めることができるようにしています。

〔授業の概要〕

- 主題名：「家族の幸せのために」
- ねらい：父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立とうとする実践意欲と態度を育てる。
- 教材：「わたしにできることを」（教育出版「小学道徳5 はばたこう明日へ」）

〔本時の展開〕

	学習活動	備考	
自尊感情の醸成のための工夫① 他者との交流を通して、考え方の違いに気付かせることにより、自他の考えのよさに気付いたり、自分の考えに自信をもったりすることができるようにしています。	導入 ○ 家族に対する自分の思いや願いについて考える。	・1人1台端末に家族に対する自分の思いや願いを入力する。	ICT活用による効果① 端末を活用して入力することにより、積極的に発言する児童だけではなく、人前で発言することを苦手とする児童も、家族に対する自分の正直な気持ちを表現できるようにしています。
	展開 ○ 教材を読み、おじいちゃんにたくさん話しかけるあかりさんについて話し合い、多面的・多角的に考える。 ◎ 家族や家庭生活を大切にすることについて、これまでの自分の経験やそのとき感じたこと、考えたことと照らし合わせながら考えを深める。 ○ 家族のために自分ができることについて考えを深める。	・1人1台端末に自分の考えを入力し、入力したことを基に自分の考えを伝え合う。 ・児童全員の考えを可視化し、友だちの考えの中で納得したことや共感したこと、考え方の違い等を端末に入力する。	
自尊感情の醸成のための工夫② 家庭生活の中で、家族の幸せのために行動していることや、これからできることなどを表現させることにより、自分が家族の役に立っていることを実感できるようにしています。	終末 ○ 家族の信頼関係について触れ、家族の一員としての自分の役割を自覚し、家族のために積極的に役に立とうとする意欲を高める。	・家族の信頼関係に係る教師による説話を行う。	ICT活用による効果② 端末の共有機能を活用し、全員の考えに触れさせることにより、家族に対する自分の思いや願い、自分に対する家族の思いや願いについて、多面的・多角的に考えられるようにしています。

〔授業の概要〕

- 主題名：「あきらめない心」
- ねらい：難しいことを諦めるのではなく、難しいからこそがんばろうとする上村さんの姿を通して、自分のなりたい姿に向けて挑戦しようとする心情を養う。
- 教材：「上村さんのちょうせんーひさい犬と共にー」（日本文教出版「小学道徳 生きる力6」）

〔本時の展開〕

	学習活動	備考	ICT活用による効果①	
自尊感情の醸成のための工夫 導入時の自分自身の思いと比較し、自分のよさに気付かせることにより、「諦めずにがんばろう」「失敗しても、チャレンジしてみよう」など、今後の生活に向けて、前向きに努力しようとする心情をもたせるようにしています。	導入	○ 挑戦しようとした経験や達成できたとき、諦めそうになった時の思いを振り返る。	端末を活用して考えを集めることにより、教師がクラス全員の意見を素早く確認し、教師の意図的な指名により、クラス全体の考えが深まるようにしています。	
	展開	○ 教材を読み、心に残った場面について話し合う。 ○ 教材文から、困難に立ち向かう人たちの思いに気付く。 ◎ 「諦めないよさ」について、多面的・多角的に考える。	・教科書本文に線を引き、上村さんやじゃがいも、応援してくれる人たちの思いに気付かせる。 ・ワークシートに考えを記入し、記入した考えは、1人1台端末を活用し、児童全員の意見を可視化できるようにする。	ICT活用による効果② 端末を活用して意見を集め、児童が互いの意見を見合うことにより、多様な考えに気付かせるようにしています。
	終末	○ 本時の学習を振り返り、今後の生活や諦めそうになったときの自分への言葉を考える。	・ワークシートに、本時の振り返りを記入する。	

〔授業の概要〕

- 主題名：「短所を改め長所を伸ばす」
- ねらい：家康が「しらかみ像」といわれる絵を描かせ、自分のそばに置いた理由や自分だったら家康と同じような行動をするかを話し合うことを通して、自分の短所を自覚して改めることの大切さに気付かせ、短所を改めていこうとする実践意欲を育てる。
- 教材：「しらかみ像」にこめられた思い（教育出版「小学道徳6 はばたこう明日へ」）

〔本時の展開〕

	学習活動	評価	備考	ICT活用による効果①
自尊感情の醸成のための工夫① 短所が理由で大きな失敗をしてしまったことを捉えさせることにより、誰にでも短所はあり、自分なりに改善を図ろうとするものの大切さについて児童が気付けるようにしています。	導入	・学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問	★評価 ・備考	ICT活用による効果① 前時に行ったアンケート結果をまとめ、一覧にして提示することにより、多くの児童が自分の短所を自覚していることを実感することができるようにしています。
	展開	・前時の学習を振り返る。 ・徳川家康のイメージを共有する。 ・本時のテーマ「自分の短所」を確認する。	・前時に行ったアンケート結果を公表し、自分の長所や短所を書き出しておく。 ・「長所よりも短所を自覚している人が多いこと」「山中伸弥先生は長所を生かしていたこと」を振り返る。	ICT活用による効果② 友だちの考えを互いに閲覧できるようにすることにより、児童が自分の考えを深めたり広げたりできるようにしています。 また、具体的に自分の姿をイメージできている児童を意図的に指名して、その考えを全体に共有できるようにしています。
	終末	・教材文の範読（P153～）を聞く。 ○「この絵の徳川家康はどんなことを考えていると思いますか。」 ○「自分だったら失敗したときの絵を常に置き続けますか。」 ○「徳川家康はなぜ、絵をそばに置き続けたのでしょうか。」 ◎「もし、短所を克服することができたら、どんな自分になっていると思いますか。」 ○「友だちの考えを見てください。」 ・友だちの考えを読む。	・「置く」「置かない」「その他」の選択肢を与えて考えさせる。 ★「しらかみ像」の絵をそばに置き続けた徳川家康の気持ちを考えることを通して、自分の短所と向き合い、短所を克服した後の自分の姿やよさを具体的に想像している。	★自分の長所、短所を見つめ直し、今後の生活をよりよいものにしようとしている。

八雲町立八雲中学校第1学年の実践

〔自主、自律、自由と責任、友情、信頼、よりよく生きる喜び〕

〔授業の概要〕

- 主題名：「誠実な生き方」
- ねらい：健二を職員室に向かわせたものは何かを考えることを通して、弱さから逃げないことが自分の誇りを守ることや自信につながることに気づき、誠実に生きようとする心情を養う。
- 教材：「裏庭のできごと」（教育出版「中学校道徳1 とびだそう未来へ」）

自尊感情の醸成のための工夫①

生徒同士、生徒と教師が対話する場面を設定することにより、異なる考えを認め合い、大切にすることのよさを実感できるようにしています。

自尊感情の醸成のための工夫②

健二を職員室に向かわせたものは何かについて考えることにより、弱さから逃げないことが自分の誇りを守ることや自信につながることに気づき、誠実に生きようとする心情を養うようにしています。

自尊感情の醸成のための工夫③

丁寧な声がけや傾聴、生徒のつぶやきを拾うことにより、生徒に安心感をもたせ、自己や他者を尊重しようとする態度や自尊感情を高めることにつながるようにしています。

〔本時の展開〕

	学習活動	備考
導入	1 自身を振り返り、問題意識をもつ。 ○ 「誠実な人ってどんな人？」 ・嘘をつかない ・真面目 ・心がきれい	・数名に理由を含めて発表させた後、「どうしたら誠実なになれるだろう？」と問い、本時の課題につなげる。
展開	2 「裏庭のできごと」を読んで考える。 ○ 教師の範読を聞く。 ○ 「健二は誠実ですか？」 ・誠実だと思う。 ・はじめは誠実じゃないけど、途中から誠実な人になった。 ◎ 「健二を職員室に向かわせたものは何かですか？」 ・自分がしてしまったことへの責任 ・叱られても仕方がないという気持ち ・弱い心に打ち克つ強い心 ・良心 ・プライド（誇り） ・罪悪感	・3人の登場人物の状況をパワーポイントを使って説明した後に範読する。 ・スプレッドシートを使って回答させ、全体で共有する。 ・構造的に板書し、考えを類型化する。 ・問い返しを行い、誠実な生き方を支えているものは何かを明らかにさせる。 ★ 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。（観察）
終末	3 よりよい生き方への思いや願いを深める。 ○ 今日の学習で考えたこと、感じたことを書く。	★ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。（ワークシート）

ICT活用による効果①

パワーポイントを使って、範読前に登場人物の特徴をイラストや文で示し、生徒があらすじや登場人物の心情を理解しやすくすることにより、発問の精選につながるようにしています。

ICT活用による効果②

スプレッドシートを使用することにより、全員の考えをリアルタイムで表示し、多様な考えを共有できるようにしています。また、短時間で共有することにより、話し合いの時間を十分に確保できるとともに、教師や生徒は気になる意見に質問し交流することにより、誠実になるための考え方を多面的・多角的に考えることができるようにしています。

乙部町立乙部中学校第1学年の実践

〔勤労〕

〔授業の概要〕

- 主題名：「働くことの尊さ」
- ねらい：社会に存在する職業それぞれの尊さや意義を理解し、将来、働くことで社会に貢献しようとする実践意欲と態度を育てる。
- 教材：「役に立つことができるかな」（日本文教出版「中学道徳 あすを生きる1」）

自尊感情の醸成のための工夫①

付箋で様々な考えを挙げさせ、その考えに対して他の生徒がコメントをするなど、多様な考え方に触れさせることにより、自分の考えのよさに気づき、自分の考えを表現しようとする意欲を引き出すようにしています。

自尊感情の醸成のための工夫②

「人はなぜ働くのか」について考えることにより、これから自分がどのように生きていくかを考えるきっかけとなるようにしています。また、事前アンケートを振り返り、自分が学校生活の中で誰かの役に立っていることに気付くことができるようにしています。

〔本時の展開〕

	学習活動	備考
導入	○ 事前アンケートの結果を見る。 ① 学校で過ごす中で、友だちに助けられたことはありますか？ ② ①で「ある」と答えた人に質問です。それはどんな場面ですか？ ③ 「働く」とはどういうことですか？	・クラウドサービスのアンケート機能を活用し、事前にアンケートを行う。
展開	○ 教材を読み、「僕」の変化を確認する。 ◎ 「僕」が「社会の役に立つ職業に就きたい」と決意したのは、どんな思いからなのかについて考える。	・クラウドサービスのチャット機能を使用して考えを交流する。 ・他者の考えに対し、コメントを返し、生徒同士で相互評価をする。
終末	○ 人はなぜ働くのか。 ○ 「働く」とはどういうことか。 ○ 振り返りを記入する。	・クラウドサービスのアンケート機能を活用し、導入時と比べる。

ICT活用による効果①

クラウドサービスのアンケート機能を活用し、「働くとはどういうことか」について回答し、テキストマイニングで可視化することにより、導入と終末で生徒の思考がどのように変化したのかを見取ることができるようにしています。

ICT活用による効果②

ホワイトボード機能を活用し、他の生徒と考えを共有することにより、自分の考えを広げ、深めることができるようにしています。

〔授業の概要〕

- 主題名：「自分を信じて生きるとは・・・」
- ねらい：人間として誇りをもって生きていこうとする実践意欲を育てる。
- 教材：「本当の私」（東京書籍「新しい道徳2」）

〔本時の展開〕

	学習活動	備考	ICT活用による効果①
自尊感情の醸成のための工夫① 同内容項目の前時における振り返りを活用することにより、誰もがもつ心の「弱さ」について、自分との関わりで考えられるようにするとともに、自分を肯定的に受け止められるようにしています。	導入	○ 前回の振り返りコメントを共有することにより、自分のもつ心の弱さについて振り返る。	端末を活用して同内容項目の前時における学習内容をクラス全体で振り返ることにより、生徒が本時の学習課題について焦点化できるようにしています。
	展開	○ 教材を読み、心の中にある弱さと気高さについて、多面的・多角的に考える。 ◎ 弱さと向き合うことを通じて、自分を信じて生きることについて、自分との関わりで考える。 ○ 自分との関わりで考えたことについて共有することを通じて、考えを深める。	
	自尊感情の醸成のための工夫② 自分の弱さと向き合う際に大切にしたいことや、目指す生き方について、自分事として考えることにより、自己を肯定し、よりよく生きようとする意欲を引き出すようにしています。	終末	○ 自分の心の弱さとどう向き合うべきかを考えることで、自分を信じて生きることへの意欲を高める。
			ICT活用による効果② 教師が、端末に入力された生徒の考えを把握・整理し、全体で共有及び意図的な生徒のグルーピングを行うことにより、生徒は「よりよく生きる喜び」についての考えを一層広げ深めることができるようにしています。

〔授業の概要〕

- 主題名：「『今』を生きる私のために」
- ねらい：自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、自分の良さを生かし、伸ばしていく充実した生き方を追求する実践意欲と態度を育てる。
- 教材：「私は十四歳」（東京書籍「新しい道徳2」）

〔本時の展開〕

	学習活動	備考	ICT活用による効果①
自尊感情の醸成のための工夫① 何かを途中でやめてしまったり、今やっていることを続けるのが辛いと感じたりするなど、同じ悩みを抱えている生徒が自分以外にもいることを認識することにより、人間らしさを表すことであることに気付き、人間理解を深めるようにしています。	導入	○ 最後までやり抜いた経験、途中でやめてしまった経験を想起する。 ○ 何かを途中でやめてしまったとき、どのような思いだったかを引き出し、共感する。	1人1台端末を活用して集計結果を可視化することにより、周囲の生徒も自分と同じような経験をしていることや、自分には経験がなくても他の生徒が経験していることだということを知ることにより、自分事として考えられるようにしています。
	展開	○ 主人公が部活をやめて落ち込んでいる気持ちや自分の姿の「理想と現実のギャップ」に悩む姿に共感する。 ◎ 自己を見つめ、自分らしさを追い求めた主人公を「支えた考え方」に気付く。 ○ 自分らしい生き方をするために大切なことを考え、交流し、他者の意見から、自分に合った考えを見付け、思考を広げたり深めたりする。	
	自尊感情の醸成のための工夫② 新たな出会いに向かおうとする姿勢の大切さやよさに気付くことにより、最後までやり切ろうとする意欲を引き出すとともに、小さなことでも挑戦しようという意欲を引き出すようにしています。	終末	○ 授業の振り返りを記入しながら、気付きを得たり考えを深めたりする。

〔授業の概要〕

- 主題名：「情報モラルと友情」
- ねらい：登場人物5人の考え方や立場を基に、友情を深めるために大切なことについて考えることを通して、自ら友情を大切に、育てようとする実践意欲や態度を育てる。
- 教材：「ゴール」（東京書籍「新しい道徳2」）

〔本時の展開〕

	学習活動	備考	ICT活用による効果①
<p>自尊感情の醸成のための工夫① 誰にでも失敗したことや悲しい思い出があり、自分だけが嫌な思いをしている訳ではないことに気付くことにより、本時のねらいについて、自分との関わりで捉えることができるようにしています。</p>	<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちと喧嘩した経験を振り返り交流することを通して、自分だけが嫌な思いをしている訳ではないことに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を活用し、Googleフォームに自分の経験を回答する。 	<p>1人1台端末を活用し、Googleフォームに自分の経験を回答させ、集計結果をグラフで可視化して提示することにより、他者と自分の経験を比較しながら考え、本時で考えさせたい道徳的価値へ方向付けをしています。</p>
<p>自尊感情の醸成のための工夫② 登場人物それぞれの立場を理解し、どうすれば友情を深めることができるかについて交流することにより、考えを深めたり、広げたりするなど、道徳的価値を多面的・多角的に考えることができるようにしています。</p>	<p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材を読み、登場人物のメッセージアプリのやり取りで不適切だった部分や、すれ違いが生じた原因について考え、交流することを通して多面的・多角的に考える。 ◎ 登場人物それぞれの立場を理解し、譲歩したり、互いに配慮し合ったりすることの大切さについて、自分との関わりで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の考えを1人1台端末を活用し、Googleジャムボードに入力して、互いの考えを共有する。 ・自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、考えを深める。 	<p>ICT活用による効果②</p> <p>個人の考えを1人1台端末を活用し、Googleジャムボードに入力させ、共有することにより、生徒は多様な考えに触れ、考えを広げさせるほか、教師による意図的な指名や問い返しにより、ねらいとする道徳的価値についてさらに深く考えることができるようにしています。</p>
<p>自尊感情の醸成のための工夫③ 多様な価値観に触れることにより、自分にとってより確かな考えをもてるようにしています。</p>	<p>終末</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習を振り返り、友情について考えたことをワークシートに書くことを通して、友情を深めようとする意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入における質問と関わらせながら、本時で考えたことをまとめる。 	

〔授業の概要〕

- 主題名：「よりよい判断とは」
- ねらい：子どもとの約束を守り抜いた手品師の物語を通して、「誠実」について考えさせ、自主性や自律性を持ち、自由と責任を引き受けて生きていこうとする判断力を育てる。
- 教材：「手品師」（光村図書「中学道徳3 きみが いちばん ひかるとき」）

〔本時の展開〕

	学習活動	備考	ICT活用による効果①
<p>自尊感情の醸成のための工夫① 生徒が記入した考えの理由を尋ねる際に、考えのよさを肯定的に受け止めながら取り上げることにより、個々の考えを尊重する風土の醸成を図ることができるようにしています。</p>	<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 過去の経験の中で、間違った「判断や行動」をしてしまったことについて振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・隣のペアと対話する。 	<p>ICT活用による効果①</p> <p>物語についての挿絵や図を画面共有することにより、視覚的な理解ができるように配慮するとともに、板書等でまとめる際の時間を短縮できるようにしています。</p>
<p>自尊感情の醸成のための工夫② 生徒の振り返りの時間を十分に確保し、本時のねらいとする内容項目に関わる記述を肯定的に捉えて交流を図ることにより、考えたことを今後の生活に生かそうとする意欲を引き出しています。</p>	<p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材を読む。 ○ 自分が悩む手品師の立場なら、友人からの電話に対してどのような判断をするか考える。 ◎ 役割演技を行い、よりよい判断について多面的・多角的に考えを深める。 A 受話器を持ちながら悩む手品師 B 男の子の所へ行くと判断した手品師 C 劇場に行く判断した手品師 D 聴衆（中立的立場） 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末で教材を共有する。 ・1人1台端末を活用して個人の考えを全体で共有する。 ・班ごとにA～Dの役割を決め、それぞれの立場を踏まえて考えたことについて議論する。 	<p>ICT活用による効果②</p> <p>ファイル共有機能を活用し、自分と他者の考えを比較することにより、生徒は「よりよい判断」についての考えを深めることができるようにしています。また、教師は、生徒の思考した内容をデータで蓄積することにより、授業改善に生かすことができるようにしています。</p>
	<p>終末</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「よりよい判断」をする際に、どんなことを大切にすることについて振り返り、今後の生活に生かそうとする意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末に入力して教師へ提出する。 ・記入後は他の生徒の感想を読む。 	

〔授業の概要〕

- 主題名：「よりよい社会の実現」
- ねらい：筆者の体験について考えるを通して、それぞれの個性や立場を尊重し、寛容な心をもって相互に理解し、謙虚に他に学び、自らを高めていこうとする実践意欲と態度を育てる。
- 教材：「あなたは顔で差別をしますか」（教育出版「中学道徳3 とびだそう未来へ」）

〔本時の展開〕

	学習活動	備考	ICT活用による効果①
自尊感情の醸成のための工夫① 端末のリアクション機能を使って一人一人が意見を示すことにより、自分の意見が受け入れられていることや認められていることを感じることができるようになっています。	導入	○ 外見だけで差別をしたことや偏見をもったことがあるか考える。	アンケート結果を即時、グラフで表示することにより、友だちの考えに興味がわくようにしています。また、互いの考えを可視化することにより、学級全体の状況を瞬時に把握することができ、自分の考えと比べながら友だちの考えを聞くことができるようにしています。
	展開	◎ もし自分が藤井さんだったら、友だちの一言をきっかけに、生き方や考え方を考えることができるかについて、自分との関わりで考える。 ○ 藤井さんの生き方や考え方からどんなことを学んだか自分事として考える。	
自尊感情の醸成のための工夫② 友だちの考えを見たり、聞いたりして、心が動いた考えや、その時の自分の気持ちをメモしながら友だちと交流することにより、相互理解につながるようになっています。	終末	○ 差別や偏見のない社会を築いていくために大切なことは何かについて考えを深める。	ICT活用による効果② 端末を見ながら友だちと交流することにより、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにしています。

〔授業の概要〕

- 主題名：「礼儀の意義」
- ねらい：授業を通して礼儀を理解し、他者との関わりの中で自主的に実践しようとする態度を育てる。
- 教材：「校長先生の模擬面接」（教育出版「中学道徳3 とびだそう未来へ」）

〔本時の展開〕

	学習活動	備考	ICT活用による効果①
自尊感情の醸成のための工夫① 考えを短時間で交流する学習活動を設定し、礼儀について立場を明確にして考えを伝え合うことにより、他者の思いや考えを受け止め、互いに認め合うことができるようになっています。	導入	○ 日本人サポーターのゴミ拾いのニュースから「礼儀」について想起する。	本時のねらいを踏まえて、注目する点に触れながら、サッカーワールドカップにおける日本人の行動を報道した海外のニュース動画を視聴することにより、礼儀について、主体的に考えられるようにしています。
	展開	○ 教材を読み、校長先生の行動に対して肯定、否定、どちらとも言えない立場に立って考える。 ○ 意見交流で出された否定的な意見から「礼儀正しい」とは何なのか、全体で改めて見つめ直す。 ◎ 礼儀正しい行動がもたらすことを全体で交流し、普段から自然とできていることに気付かせ、「礼儀」を客観的に考える。	
自尊感情の醸成のための工夫② 学級全員の考えを一斉に表示し、表示された少数派の意見も教師が意図的に取り上げ、全体に共有したりするなど、生徒一人一人の考えを大切にすることにより、生徒の自尊感情が醸成されるようになっています。	終末	○ 本時で考えたことを振り返る。	ICT活用による効果② 端末を活用し、自分の考えを分類して色分けしながら入力することにより、自分の立場を明らかにし、考えの違う他者と交流することが容易になり、「礼儀」についての考えを一層広げ深めることができるようになっています。